



図書館クイズ

物語の中には、いろいろな動物が登場します。さて、いちばんたくさん出てくる動物はなんでしょう？

林比緒

お手伝いで買った本

美濃加茂市教育長 林 伍彦

「今年の推せん図書は、これですよ」と紹介しながら、どうしたらこの子たちが、本を読むようになるのか考えた。

そこで、十二月の学級懇談会に集まった保護者の方に提案した。「ぜひこの子たちに、この推せん図書を読ませたい。そのために、本の購入費が必要だが、この冬休み、お手伝いを多くするようにすすめるから、なんとかそのお手伝い費で本を購入させたい」と話した。

保護者の中には、お手伝いを金に換金することに抵抗された方もあったが、学級全体で取り組むことだからという意見もあり、保護者の賛同を得ることができた。

大掃除一時間五十円、お使い一回三十円、食事の手伝い一回三十円等、手伝いの内容と時間、単価を一応決め、その他親の判断の部分も設けて冬休みに入った。

休み明け、全員の子どもが、千円から千五百円程度お手伝いで資金を得ることが出来た。

子どもたちは、お手伝いと、お年玉で二冊以上の本を手に入れることができ、おかげで全校読書量一位の学級になることができた。

若い頃の、読書の大切さを感じていたときの実践の一つである。今もこの子たちと同窓会をすることでよくこの話題になる。苦労して手に入れた一冊は、他の本とちがって、きつと彼らの生涯の友となっただろう。

親になった教え子たちも含めて、家庭の読書の大切さを、今一度訴えたいものである。

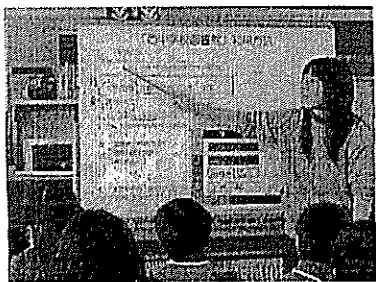
読書タイム

市内の学校・園施設の子どもと読書をのぞいてみました

西中学校

西中学校では、4月に各学級、国語科の「読書」の単元で「図書館利用ガイダンス」を行なっています。図書館の利用方法やマナーなどの過ごし方を再確認することで、円滑に読書指導と生徒の読書活動が行なえるようにしています。

委員会では、新刊の紹介や、マナーの呼びかけの他に、全校生徒が安心して読書活動を進めることができるように、「学別利用日」を設けています。「学別利用日」には、静かに読書を楽しみ、図書委員や教師に読書指導を受ける生徒の姿が多く見られます。



夏休みは図書館へ行こう！

夏休みには、ぜひ市立図書館を利用しましょう。

読書や学習にも使える机もあるし、静かで、涼しくて、ゆったりとすごせます。子ども用の本も本棚からあふれるほどたくさんありますよ。大人にとっても、子どもむけに書かれてある本は、わかりやすいのでおすすめです。

夏休み中に、まとまった読書をするのもいいですね。(貸し出し1人5冊、2週間)

カウンターでは、調べたいことなどの相談にものってもらえますので、気軽に声をかけてみてください。

☆ 子どもたち向けの図書館祭りもあります。

○ 東図書館(7/27~7/29) Tel.26-3001

○ 中央図書館(8/1~8/3) Tel.25-7316

・ 7/27「かたりことり」のおはなし会「こわーいおはなし」

・ 8/1・しかけ絵本づくり・中国語と日本語で聞き比べ

・ 7/28 絵手紙をかこう

・ 8/2・おはなしランド夏休みスペシャル

・ 7/30 英語で読み聞かせ

・ 8/3・「星の子」の人形劇「ばけものつかい」・漢詩を聞く

*両館とも、期間中「くるみの会」による「手作り絵本展」開催 *くわしい内容については、直接お問い合わせ下さい。

太田小学校読み聞かせボランティア

いろいろえんぴつ

今日は、今年度初めての「いろいろえんぴつ」の「月の会」です。第一回なので、メンバー総出の、時間枠拡大豪華版です。一、二年生全員が集まって、先ずはグループ紹介がわりの手品です。それから、「あり」をテーマにしたお話を三つ、大型絵本やペープサート（紙人形）をつかって、読んでいきます。

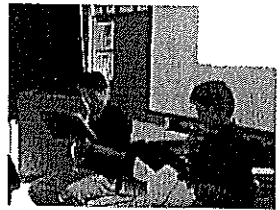
子どもたちがお話に聞き入り、「えーっ」と声をあげたり、笑ったり、とても楽しい一時間でした。「あーよるこんでくれてよかった...」これが、読み聞かせを続けていくための原動力になっているのです。



「おまじないつかい」

「いろいろえんぴつ」のメンバーは、現在十八人。おもに太田小学校に子どもが通っている人ですが、卒業後もた

くさんの人が続いています。二十年近く前に太田小PTA母親委員会の取り組みとしてスタートし、途中ボランティアのグループとなつてからも、七年がたちました。昼休みの「月の会」や、朝の読み聞かせ、図書館まつり期間中の



「読み聞かせフェスティバル」など、学校と連携をとりながら無理のないところで活動をしています。

わたしたちが、紹介した本は昨年一年間でも五十冊はこえています。それだけの本を「声」にして子どもたちに届けられたことうれしく思っています。



全部でなくてもいい、全員でなくてもいいのです。そのうちの一冊でもだれかの心にとどまり、本つておもしろいなあ、読んでみたいなああって感じてくれることを願って、これからも長く太田小学校の子どもたちを見守っていきたいと思っています。

市内の小中学校では、保護者による読み聞かせが行われているところがたくさんあります。参加されてみてはいかがでしょうか。（各学校へお問い合わせください。）

図書館クイズの答え
『きつね』です。たとえば、「ともだちや」「こんぎつね」つりばしゆらゆらなど、心に残るお話が多数あります。



「としよかんライオン」
ミシェル・ヌードセン作
岩崎書店 一六八〇円



てしまいません。さあ
いったい...
この大きくてし
なやかなライオン。
素敵！



「おまじないつかい」
なががわ ちひろ作
理論社 一〇五〇円

女「ではなく「おまじないつかい」。「ビビデバビデブー」「ポンポコリンのビブー」と、ゆらちゃんもとうとうおまじないつかいの修行をはじめました。



そんなある日、たんにんの小島先生が入院。クラスのみんなは、赤ちゃんが無事生まれますようにと、おまじないをとなえながら千羽鶴をおります。



「風が強く吹いている」
三浦しをん作
新潮社 一八〇〇円

ぼるアパートに住む大学生がたった十人で箱根駅伝を目指すことになりました。それも陸上経験者は三人だけという無謀な挑戦。初めは走ることがなぜおもしろいのか分からなかった彼らも、走る苦しみと喜びに満ちた夢の大会に出場することで、そこに人の生きかた、人間のありかたを見出ししていきます。



「ケータイ世界の子どもたち」
藤川 大祐著
講談社現代新書
七五六円

ケータイ世界の子どもたち 藤川大祐



携帯電話の登場で生活が便利になった一方で、学校裏サイトやネットいじめなど、子どもたちが深刻なトラブルに巻き込まれるケースが年々増えきました。子どもが「携帯電話がほしい」と言ったとき、結果的に買うかどうかよりも、どれだけ親子で話し合えるかが重要だと考えます。

この本には大人が取り組むべき課題がわかりやすく紹介されています。

この本読んでみて!